別紙２

令和２年度　　宇都宮市立一条中学校　学校評価書

※　網掛けのないの部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す生徒像含む）

（１）基本目標

豊かな心と健やかな体を持ち、自ら考え行動するなど、意欲を持って自主的・創造的に生きることができ、日本はもとより国際社会に貢献できる人間を育成する。

（２）具体目標（具体的な児童生徒像など）

・自ら学び自ら考える生徒（確かな学力）　　・認め合い協力する生徒（豊かな心）

・明るくたくましい生徒（健康や体力）

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「潤いのある学校・活力のある学校・開かれた学校」

生徒一人一人を一条地域学校園の中で、小・中・地域の連携協力のもと、よりよく成長させるために、教職員、保護者、地域が相互に関わりをもち、学校経営を展開することが重要である。そのために３つの柱からなる目指す学校像を設定した。

・教職員の資質の向上や地域人材の教育活動への参加を基盤に、花や緑にあふれ清掃の行き届いたよりよい環境下での潤いのある学校

・教育課程の適切な編成と教育の内容や方法の充実による子どもの良さが活きる活力のある学校

・地域社会との関わりの中で、保護者や地域住民など地域人材の協力を得た教育活動や情報発信を推進する地域に信頼され開かれた学校

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）潤いのある学校

・子どもの学習環境づくりに努める。　・望ましい人間関係づくりに努める。

・職場の物的環境づくりに努める。　　・教職員の資質の向上、健康管理に努める。

（２）活力のある学校

・社会に開かれた教育課程の編成に努める。　　○学習指導の充実に努める。

・特別支援教育の理念を生かした教育に努める。　・心の教育を推進する。

・特色ある学校づくりを推進する。　　・積極的な生徒指導・教育相談を推進する。

○体力の向上と健康安全教育を推進する。

（３）開かれた学校

・地域学校園の中心として、地域人材等教育資源を有効活用し、教育活動の効率化を図るとともに開かれた学校づくりの推進に努める。

[一条中学校地域学校園教育ビジョン]

基本をしっかり身に付け，地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

４　教育課程編成の方針

（１）日本国憲法、改正教育基本法、学校教育法及び新中学校学習指導要領の関係法令、及び県教育行政基本方針、市教育委員会管理運営規則、市学校教育スタンダードの示すところに従い本校教育課程を編成する。

（２）地域や学校の実態を踏まえ、生徒の心身の発達の段階や特性を十分考慮し、生徒の人間として調和のとれた育成を目指して特色のある教育課程を編成する。

（３）市の小中一貫教育カリキュラムの趣旨を生かし、学校教育全般にわたる教育活動の充実を目指して、適切な運用が図れるよう配慮して編成する。

５　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

【　学　校　運　営　】

・生徒が自主的に新たな学校環境や地域環境作りに関われるように努める。

・率先垂範し、生徒とのよりよいコミュニケーションづくりに務める。

〇学び方を育成し、基礎的・基本的な内容の指導の徹底と説明力・発表力などの向上を図り、生徒一人ひとりの能力・特性の伸長に努める。

・自己の能力・可能性を伸張し、発揮できる特別支援教育の充実に努める。

〇ボランティア活動等体験活動と関連させた道徳教育を推進し、思いやる心や社会貢献精神等、豊かな心の育成に努める。

・社会規範を身につけ、望ましい集団活動の推進と組織的計画的な教育相談等の校内支援に努める。

〇健康の維持増進、体力の向上を図るとともに、健康や安全に対する意識の高揚に努める。

・家庭・地域社会や各種団体、関係機関との連携を密にし、学校教育への理解と協力を得ながら、地域学校園の中心として教育活動の効率化を図るとともに、開かれた学校づくりに努める。

【　学　習　指　導　】　・基礎、基本の確かな定着とそれらを活用する力の育成を図る指導の充実

【　児　童　生　徒　指　導】　・基本的な生活習慣、規範意識、自己有用感の育成を図る生徒指導の推進

【健康（体力・保健・食・安全）】　・健康でたくましい心と体力の向上を図る。

・健康的な食習慣や基本的な生活習慣を身に付けさせる。

６　自己評価（評価項目のＡは市共通，Ｂは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価
目指す	Ａ１　生徒は，進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答９０％以上	単位時間における授業のねらいの明確化と、個に応じた指導をすることで、進んで学習に取り組めるよう工夫する。 多様な学び合いの場の設定することで、進んで学習に取り組めるよう工夫する。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者・生徒の肯定的な回答が90%以上であり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・生徒の学習意欲がさらに向上するよう工夫する。
	Ａ２　生徒は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答８５％以上	主体的・対話的で深い学びにつながる道徳の授業の実践やそれを生活と結びつけることで、生徒の道徳力を向上させる。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的な回答が85%以上となり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・道徳の授業の充実をはかり、生徒の実践力を向上させることができるよう工夫する。
	Ａ３　生徒は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答９０％以上	毎月の生活目標を示して目標ある生活をさせるとともに、全教職員の共通理解を図り、生徒指導に当たる。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的回答が昨年より上昇している、生徒の肯定的回答のみ数値指標の90%を越えことが出来なかった。 【次年度の方針】 ・教職員が率先垂範の姿勢で行動する。 ・移動教室や集会の時には教師が５分前行動を心掛け、生徒の意識を啓発することで、より一層規範意識を定着させていく。 ・生徒会学年委員会・生活委員会等で毎月の生活目標を立て、自律的な生活ができるよう支援していく。

生徒の姿	Ａ４　生徒は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答８０％以上	小中連携を図ったあいさつ運動の推進などで時と場に応じた言葉遣いやあいさつができるようにする。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的回答が数値指標の 80%を大きく上回った、十分に目標を達成できたと思われる。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動日だけでなく、日常生活からあいさつを進んでするよう促すとともに、いつでも、どこでも、誰に対しても気持ちのこもったあいさつができるよう指導を継続していく。また、教職員が率先垂範してあいさつを行い、日々生徒に接していく。 ・授業の開始・終了の挨拶を全員がしっかりとできるよう指導していく。 ・生活委員会を中心に、あいさつ推進のポスターなどの制作や呼びかけを行い、あいさつ運動の活性化や習慣化を図る。
	Ａ５　生徒は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答８５％以上	自分の良さや個性を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画させることで、その達成に向けてあきらめず努力する力を高める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が 83.2%と数値指標を若干下回ったが、全ての肯定的割合は昨年度より上昇しており、おおむね目標は達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・学校行事などを通して粘り強く目標に向かって取り組めるよう支援する。 ・日々の生活において、達成可能な目標をこまめに設定することによって、達成感や自己有用感を持たせるよう工夫する。
	Ａ６　生徒は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答９０％以上	保健体育の授業において、段階的な指導の工夫とわかりやすい指導を工夫することで、生徒の興味・関心を高める。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的割合が数値指標の 90%を超えており、十分に目標は達成したと考えられる。 【次年度の方針】 保健体育・学級活動等を通して日常的にこれまでの取組を継続していく。
	Ａ７　生徒は，夢や目標をもって，社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 肯定的回答８０％以上	発達段階に応じたキャリア教育を行うことで、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力を育成する。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者・生徒の肯定的な回答が 80%以上であり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・ボランティア活動や生徒会活動、部活動などいろいろな活動を通して向上を図りたい。
	Ａ８　生徒は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答８０％以上	外国語の授業や総合的な学習の時間などでの言語活動の充実を図る指導によってコミュニケーション能力を高める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答が減少しているが生徒は 85.7%と昨年以上であり、おおむね目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・外国語だけでなく言語活動を充実させる活動を多く取り入れる。
	Ａ９　生徒は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答８０％以上	総合的な学習の時間や地域ボランティアに参加することによって宇都宮の良さを多く体験できるように工夫する。	B	【達成状況】 ・昨年同様、教職員・保護者・生徒の肯定的な回答が 80%以下であり、改善の必要があると考えられる。 【次年度の方針】 ・宇都宮学をうまく利用して、宇都宮の良さが体験できる内容をさまざまな活動に取り入れる。

	Ａ10　生徒は，ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答８０%以上	読書活動や各教科での ICT 機器の積極的な推進で、ICT 機器や図書等を学習に活用する力を高める。	B	【達成状況】 ・保護者・生徒の肯定的な回答が 80%以下であり、改善の必要があると考えられる。 【次年度の方針】 ・GIGA スクール構想のもと、ICT 機器や図書を利用した活動を積極的に行う。
	Ａ11　生徒は，高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答８０%以上	地域学校園全体で効果的な道徳教育を行い、それを地域学校園で実践することで、地域の高齢者に対する感謝やいたわりの気持ちを高める。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者・地域住民・生徒の肯定的な回答が 80%以上であり、目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・今後も道徳科の内容を中心に効果的な活動が行われるよう支援していく。
	Ａ12　生徒は，「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答８０%以上	ボランティア活動や、NIE 活動などを通して現在直面している諸問題に関して前向きに考えていく力を育てる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的な回答は 71.9%、教職員は 54.3%となり、昨年度より減少している、目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・SDGs についての理解を深めるとともに、関連した活動を様々な活動に取り入れていく必要がある。
	Ｂ１　生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 肯定的回答８０%以上	生徒会を中心に、クリーンアップキャンペーン・地区主催のボランティア活動などに積極的に参加する。 JRC 委員会を中心に、地区体育祭・みこし祭り等の係及び選手として積極的に参加する。	B	【達成状況】 ・コロナの影響でボランティア活動がほとんど出来ず、教職員・保護者・生徒の肯定的な回答は 80%以下となり、目標を達成することは出来なかった。 【次年度の方針】 ・新しい生活様式の下でも出来る活動を模索していく。 ・これまで同様、校内にボランティア活動の掲示物を掲示し、生徒の意識を高めていく。
目指す学校の姿	Ａ13　教職員は，特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答９０%以上	教育相談・特別支援教育部会において情報交換をしっかり行うと共に、報･連･相を確実に行いながら素早く対応する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は若干低下したが 91.4%であり、目標を達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・教育相談･特別支援教育部会やケース会等だけでなく、機会を捉え生徒の情報を迅速に伝達し共有することで、より適切な対策を検討していく。（各機関や小中の連携を含む）
	Ａ14　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答９０%以上	いじめ撲滅集会や道徳での計画的な学習によって、いじめが許されない行為であることを実感する機会をより多くつくる。	B	【達成状況】 ・教職員の回答を除いた全ての回答は昨年度の回答より上昇した。保護者の肯定的回答は 81.8%であり 90%を超えることは出来なかったが、おおむね目標は達成できていると考えられる。 【次年度の方針】 ・いじめの未然防止のための取り組み等や指導状況や校内体制を、各学年便りや、HP 等を利用し情報発信をする。また、問題への早期発見、早期対応のために生徒の様子や変化を見逃さないよう努め、見守り態勢をさらに推進していく。 ・スタンダードダイアリーや生徒との対話の中で、日々の様子を把握し、保護者との連携を密にする。

	Ａ15　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答８５％以上	教育相談や家庭訪問等を有効に活用しながら、家庭との連携を密にとり、問題があれば早期対応、早期解決をめざす。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者・児童生徒すべてにおいて肯定的回答の割合が 90%を超えており目標は達成している。これは学級に入れない生徒への別室での個別対応等を組織的・計画的に進めてきた成果と考えられる。 【次年度の方針】 ・教育相談や三者面談、普段の電話連絡等を通し、保護者との連携や関わりを密にしていく。QU 検査や明るい学校生活アンケートの実施を継続していくことで生徒理解に努める。 ・適応支援教室や外部機関を紹介することで、今後の不登校改善に役立てていく。
	Ａ16　教職員は，外国人児童生徒等の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答９０％以上	国際交流協会指導員や日本語指導員との連携や家庭との連携を密にとることで、適切な対応支援する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 91.4%で、目標を達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・年度始めの職員研修（生徒理解）において、教員間での情報の共有をしっかり行う。 ・今年度同様、日本語指導員との連携を密に行う。
	Ａ17　学校は，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答９０％以上	教師自らあいさつや声掛けをし、よりよい人間関係を醸成するとともに、学級経営や教育相談を充実させ、「居がい」のある学校づくりに努める。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者の肯定的回答が若干低下しているが、全体として目標は達成していると考えられる。特に生徒は 88.4%と昨年度より上昇した。 【次年度の方針】 ・これまでの取組は継続し、生徒と教師のより良い関係を築いていくために、生徒指導、教育相談の充実を図る。 ・QU 検査等を活用しながら居心地の良い集団づくり・学級経営を工夫していくとともに、教育相談等を通じて個に応じた指導・支援の充実に努めていく。
	Ａ18　教職員は，分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答８５％以上	前時の復習としての小テストを実施するなど、基礎･基本の定着を図る。 教員全員が年１回以上授業を公開し、互いに参観することによってOJT型研修を充実させ、指導力の向上を図る。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者・生徒の肯定的な回答が 80%以上であり、特に生徒は 5%以上上昇し、おおむね目標は達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・さらに分かる授業･きめ細かな指導を行っていく。
	Ａ19　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答９０％以上	教育目標及び学校経営の方針を全職員が意識し、全教育活動でそれが生かせるように活動しながら業務を進めるようにする。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答が 90%を超えており、目標を達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・さらに、一体感をもって業務を行っていけるよう工夫していく。
	Ａ20　学校は，教職員の勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答８０％以上	従来の業務内容をもう一度見直し、教員の業務内容の精選を行う。 部活動地域指導者を有効活用した部活動の充実を図る中で、教員の業務縮減を行う。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答が 85%を超えており、目標を達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・さらなる効率化、部活動のありかたに関しての改善を図っていく。

	Ａ21　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答８５％以上	地域学校園あいさつ運動の充実を図る。 行事等における小中の連携を図る。 （文化祭・中学校訪問等） 地域学校園各部会取組の充実を図る。 （・学習部会・生活部会・健康、体育部会・地域学校園事務室部会）	B	【達成状況】 ・コロナの影響で十分な活動が出来なかったため、全ての肯定的回答が減少した。特に生徒の肯定的な回答が 62.2%となってしまい目標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 ・新しい生活様式に合わせた取組を小学校との連携を丁寧に取りながら実施していく必要がある。
	Ａ22　学校は，地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的回答８０％以上	地域コーディネーターと連携し、地域協議会活動の有効活用や学校支援の取り組みを推進する。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者・知育住民の肯定的回答が80%を超えており、おおむね目標を達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続し、地域コーディネーターと連携して地域の人材を生かした学習支援等を充実させていく。
	Ａ23　学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答８０％以上	家庭訪問、保護者会、三者懇談、オープンスクール等を活用し、保護者との連携を図る。 地域コーディネーターと連携し、地域協議会活動の有効活用や学校支援の取り組みを推進する。また、PTA との連携を深め、学校運営の充実を図る。	B	【達成状況】 ・教職員・保護者・知育住民の肯定的回答が80%を超えており、おおむね目標を達成していると考えられる。 【次年度の方針】 ・これからも保護者会、三者懇談、オープンスクール等を活用し、保護者との連携を図っていく。 ・引き続き防災訓練、ボランティア活動等を通して、地域との連携を深める。
	Ａ24　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答９０％以上	避難訓練や防災訓練を行うことで安全に関する知識を高め、安全点検を毎月確実に行い、修繕個所を早めに修繕する。 地域防災マップをホームページにのせ危険個所を周知する。	B	【達成状況】 ・地域住民は 100%、教職員・保護者の回答は 90%以上と目標は達成したと考えられる。 【次年度の方針】 ・内容を精選して実施する。
	Ａ25　学校は，学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的回答８０％以上	図書の希望調査やＩＣＴ機器の整備を積極的に行い、効率的に利用できるようにする。	B	【達成状況】 ・保護者・生徒の肯定的な回答が 80%以下であり、改善の必要があると考えられる。 【次年度の方針】 ・GIGA スクール構想のもと、ICT 機器を利用した活動を積極的に行う必要がある。
	Ｂ２　教職員は、あいさつや対応が丁寧で誠実である。 【数値指標】 肯定的回答９０％以上	誰に対しても気持ちのよいあいさつを教職員自ら率先して行い、誠実に接するよう努める。	B	【達成状況】 ・全ての肯定的回答が 90%を超えており、目標が高いレベルで達成できていると思われる。 【次年度の方針】 ・これからも教職員一人一人が意識して業務にあたるようにしていく。
本校の特色・課題等	Ｂ３　教育相談を充実させて生徒理解を深め、組織的に不登校の予防、いじめの早期発見・早期解決を目指している。 【数値指標】 肯定的回答９０％以上	教育相談では生徒の話をじっくり聞き、個々の生徒理解を深める。いじめに対するアンケートを年４回実施し、いじめの早期発見、早期解決に努める。生徒指導部会や教育相談・特別支援教育部会において情報交換をしっかり行うと共に、報・連・相を確実に行いながら素早く対応する。	B	【達成状況】 ・教職員・生徒の肯定的回答は 90%以上であり、十分に達成できていると思われる。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続し、生徒に対する丁寧な関わりと理解を深める。 ・迅速で密な情報交換を行い、問題の早期解決に努めていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

（１）今年度のアンケート結果は、全 23 項目中 17 項目に於いて肯定的回答が 80%以上を達成することができた。また、昨年と比べ肯定的回答が上昇している項目が多く見られ、おおむね本校の取組は妥当であったと考えられる。
（２）目標に達していない項目の№18 と№19 と№21 については、コロナの影響で活動が制限されたため肯定的回答が低下したものであると思われる。
（３）保護者による評価では、いじめ対応や ICT 機器の使用や整備状況について、他と比較して肯定的回答の割合が低ものとなっている。
（４）〇地域学校園の各小学校との連携強化を図りながら、小中一貫教育を推し進めているが、コロナの影響で活動が制限されたため、特に生徒の肯定的回答の割合が低くなった。
（５）地域の方からの評価はたいへん肯定的なものであり、８つの項目で肯定的回答が 100%となった。

７　学校関係者評価

（１）全体的に高評価となっており、安心できます。
ICT 機器の学習活動については、コロナ禍における必要取組施策かと思います。
（２）Ａ8,10,11 は上がってよいと思うが、教職員が下がっているのが気になる。
Ａ13,14,15 はコロナ禍の中、教職員が物足りなさや生徒と触れ合う欲求を感じます。
（３）コロナ禍において地域や小学校との関係づくりは大きな課題である。
ICT については、地域・保護者も含めて取り組んでいかなければならない、何ができるか考えていく必要がある。
（４）先生方の熱心な指導の成果が表れていると感じました。
（５）改めて一条中は素晴らしい学校だと感じました。校長先生はじめ先生方のご尽力に敬意を表します。
（６）A12 については、昨年より低下しており、さらに教員は生徒よりもかなり低い数値となっている。今後、意識を高く持って取り組む必要がある。どのように関連づけた活動をしていくのか次年度に期待したい。
（７）A12 については A9 あたりとも関係すると思うので、今後、積極的に啓蒙が必要だと感じました。
（８）新型コロナの関係で活動が制限されたものについて今年度は仕方がないが、来年度は様々な工夫をしながら活動できるようにすることも大切になってくるのではないかと思う。直接会わなくてもオンラインなどを利用するなど工夫の余地はあると思う。
（９）先生方の自己評価の厳しさには驚いた。先生方の愛情と優しさを感じることができる。しかし、いじめの設問についての学校側の取り組み方にはもう少し努力が必要だと思います。いじめ対策にはやりすぎることはないと思うのでもう少し具体的な取り組みを検討してほしい。

８　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

（１）今年度のアンケート結果は、全 23 項目中 17 項目に於いて肯定的回答が 80%以上を達成することができた。また、昨年と比べ肯定的回答が上昇している項目が多く見られ、おおむね本校の取組は妥当であったと考えられる。来年度は今年度の結果を参考にして目標指標を設定する必要がある。また、教職員、保護者、地域住民、児童生徒の肯定的回答の割合のずれが大きい内容について、そのずれを少なくするような工夫をしていく必要がある。
（２）目標に達していない項目の№18 と№19 と№21 については、コロナの影響で活動が制限されたため肯定的回答が低下したものであると思われる。来年度は、コロナ禍であってもできる内容を検討するなどの工夫が必要であると思われる。
（３）保護者による評価では、いじめ対応や ICT 機器の使用や整備状況について、他と比較して肯定的回答の割合が低ものとなっている。来年度は、GIGA スクール構想により ICT 機器が整備されることになるのでそれらを積極的に活用し改善を図っていくとともに、いじめ対策にはやりすぎることはないと思うのでもう少し具体的な取り組みを検討したい。
（４）〇地域学校園の各小学校との連携強化を図りながら、小中一貫教育を推し進めているが、コロナの影響で活動が制限されたため、特に生徒の肯定的回答の割合が低くなった。来年度は、コロナ禍であってもできる内容を検討するなどの工夫が必要であると思われる。
（５）地域の方からの評価はたいへん肯定的なものであり、８つの項目で肯定的回答が 100%となった。これからも地域の方々からも信頼され応援して頂ける学校づくりを推進したい。
（６）「持続可能な社会」については、教職員・生徒ともに意識を高く持って取り組む必要がある。新たに「持続可能な社会」について理解を深めさらに実践していく内容に取り組んでいく必要がある。